



津本 陽(つもと よう)

1929(昭和4)年、和歌山市生まれ。1978年、故郷和歌山を舞台にした「深重の海」で直木賞を受賞。「下天は夢か」など戦国を舞台にした長編歴史小説を意欲的に執筆し、1995年、「夢のまた夢」で吉川英治文学賞を受賞。徳川吉宗を描いた「大わらんじの男」など著者多数。1997年には、長年の文学業績を認められ紫綬褒章を受章、2005年には菊池寛賞を受賞した。

県として、様々な時代で海と深い関係を持っていますが、なかでも、熊野水軍の活躍は、日本の歴史に大きな役割を果たしてきました。
津本●熊野水軍は紀伊半島南部を拠点として活動し、瀬戸内海まで制していたと言われています。その水軍を統括していた熊野別当とは、熊野三山を統べる役職でもあったんですね。田辺生まれの武蔵坊弁慶の父である湛増も熊野別当でした。

の鶏を聞かせた話は、平家物語に出てくる鶏合壇ノ浦合戦として有名ですね。
津本●壇ノ浦の戦いは海上での戦争ですから、湛増率いる水軍の活躍により源氏を勝利に導いた訳です。そして戦国時代になると雑賀衆や根来衆が活躍します。彼らは数千丁の鉄砲を所有する恐るべき軍隊だったんですね。
仁坂●どうしてそれほど鉄砲があったのでしょうか？
津本●その理由も実は黒潮なんです。黒潮には上り潮と下り潮があり、枯木灘から下り

大きく海に向かって開かれた県、和歌山。
豊かな自然と温暖な気候に抱かれて、太平洋を自由自在に移動する、
大らかで進取の気質に富んだ紀州人が生まれた。

黒潮が育んだ 紀州人氣質



仁坂吉伸(にさか よしのぶ)
和歌山県知事



2010年6月に発刊された「荒ぶる波濤(はとう)」PHP研究所

知事対談

小説家 津本 陽 × 和歌山県知事 仁坂吉伸

開国と明治維新は紀州から始まった

仁坂知事(以下仁坂)●津本先生は、和歌山出身の歴史上の巨人たちを数多く小説化し、紀州人の気質などには精通しておられます。和歌山県は古くから海と深く関係しながらさまざまナドラマを繰り返してきました。先生の新刊「荒ぶる波濤」で描かれている陸奥宗光も、「カミソリ大臣」と呼ばれるほどの外交手腕を発揮した和歌山が誇る偉人ですね。

津本陽氏(以下津本)●その通りです。陸奥と坂本龍馬がいなければ明治維新はどうなっていたことか。「荒ぶる波濤」では、龍馬と共に過ごした時代を書いています。
仁坂●「独立して自ら其志を行うを得るものは只余と陸奥のみ」と龍馬に言わしめるほど、戦略を立てる才能に優れていたようですね。
津本●亀山社中には計算に優れた者や腕っ節が強い者など多彩な人材が集まっていますが、龍馬は特に交渉力などに優れた陸奥の才気を愛し、

終始行動を共にします。その後龍馬が暗殺され、明治維新を迎え陸奥は政治の表舞台に出て行きます。
仁坂●そうですね。その後投獄されたりするんですが、盟友伊藤博文に請われて外務大臣に就任。幕末から続く欧米との不平等条約を撤廃させ、日清戦争を乗り切った功績は非常に大きいものでした。
津本●海外の列強に一步もひかない陸奥の交渉のおかげで外国と対等に話ができるようになり、日本は国際的な地位を確立していく訳です。日本の本当の意味での開国、明治維新は陸奥の手腕に大きく由来しているんですね。

海との深い繋がりが紀州人を作る

仁坂●開国と言えばペリーの来航ですが、それより62年前にアメリカ商船が和歌山の串本に來航し、通商を申し込んでいます。黒潮が目の前を流れる和歌山県は、古くから海上交通の要衝であったんですね。海に向かって開かれた

